

中間評価結果（平成 17、18 年度採択）

番号	研究課題名	研究代表者	評価
	社会心理学に基づくコミュニケーション型 TDM に関する研究開発	東京工業大学大学院 教授 藤井 聡	A
<p>< 研究継続の妥当性評価 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 研究の進捗状況、研究成果の見通しはともに良好であり、計画通り研究を継続することが妥当である。 <p>< 今後の研究計画・方法への指摘事項 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 実施事例を増やし MM（モビリティ・マネジメント）の技術的・実務的知見を集約し、成果を「手引き」として取りまとめて頂きたい。また、MM を全国展開する際の留意点や、MM の有効性の制約要因（都市規模、交通特性（公共交通のネットワーク密度等）、気象特性（地理的特性）等）について整理・分析し、「手引き」に反映して頂きたい。 MM は、社会的・公共的な視点から人々の行動変化を促す活動と理解しているが、地域の中で MM 以外の他の同種の活動（例えば河川の環境改善ボランティアや道守活動）と十分な連携をとることにより、公共地域活動に昇華させることが可能であると考えられるため、こうした点も視野に入れて研究を進めて頂きたい。 MM の手法の持つ社会的な意味と限界性さらには危険性など、ネガティブな側面を含めた基礎的な側面について、分析ととりまとめをお願いしたい。 			
番号	研究課題名	研究代表者	評価
	市民参画型道路計画体系の提案と道路網計画における対話技術の開発	東京工業大学大学院 教授 屋井 鉄雄	B
<p>< 研究継続の妥当性評価 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 実用性の高い対話支援システムを構築するため、指摘事項に留意しながら、計画通り研究を継続することが妥当である。 <p>< 今後の研究計画・方法への指摘事項 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 現在のテーマ 3（自然言語処理技術と交渉理論を応用した対話支援システム）と、テーマ 1（論理的・手続き的整合性を高めた計画体系）及びテーマ 2（地域交通計画・道路網計画における新たな市民参画の方法論）との一体性が不足しているように思われる。テーマ 1 及び 2 から、具体的に、テーマ 3 がなぜ必要か及びテーマ 3 に求められる要件を明確にした上で、テーマ 3 を実施する必要がある。また、テーマ 3 から得られた知見をテーマ 1 及び 2 に反映して頂きたい。 			

評価の詳細については、参考（研究継続の妥当性評価の基準）を参照。

番号	研究課題名	研究代表者	評価
	道路機能に対応した性能目標照査型道路計画・設計手法論の研究開発	名古屋大学大学院助教授 中村 英樹	A

< 研究継続の妥当性評価 >

- ・ 研究の進捗状況、研究成果の見通しはともに良好であり、計画通り研究を継続することが妥当である。

< 今後の研究計画・方法への要望 >

1. 道路の設計変数・計画変数を将来の可能性を含めて幅広く抽出した上で、設計フローを整理して頂きたい。需要特性や気象特性が道路の交通パフォーマンスに及ぼす影響の把握に大きな労力が費やされているが、将来はより柔軟化することも考え得る設計変数・計画変数を含めて、それらが交通パフォーマンスに及ぼす影響に関して、海外事例を把握しつつ重点的に調査研究を進めて頂きたい。
2. 平成 19 年度に予定されている「街路系道路の計画設計手法の開発」は重要な研究テーマであるが、今後より発展的な研究成果を得るため、上記 1. に重点を置くことにより、さらに効果的な研究となることが期待される。

番号	研究課題名	研究代表者	評価
	集客地の活性化に資する、道路のホスピタリティ表現手法についての研究開発	東京大学アジア生物資源研究センター 教授 堀 繁	C

< 研究継続の妥当性評価 >

- ・ 2 年間の調査研究において、事例集作成に必要な事例は収集されたと考えられることから、平成 19 年度は成果の取りまとめに注力するよう計画を修正する必要がある。

< 修正内容 >

1. 平成 19 年度は 2 年間の研究成果を整理の上、事例集として取りまとめて頂きたい。なお、事例集作成に必要な事例は既に収集されたと考えられるため、平成 19 年度に補足事例調査を実施する必要はないものと考えられる。

< 今後の研究計画・方法への指摘事項 >

事例集を作成するにあたっては、以下の点に配慮願いたい。

1. ホスピタリティ表現の分類で用いられている用語は、事例集利用者が理解しやすいようご配慮頂きたい。
2. エレメント主義に陥らないよう、ホスピタリティ表現の組み合わせ方や場所との適合性、コスト、維持管理、使い方などについて言及して頂きたい。
3. 道路管理者の理解を促進するため、図やイラストを用いてホスピタリティ表現手法の留意点を説明し、事例の写真はホスピタリティ表現手法の留意点をどのように具現化したかの説明用として頂きたい。

評価の詳細については、参考（研究継続の妥当性評価の基準）を参照。

番号	研究課題名	研究代表者	評価
	道路の整備・維持管理費用、環境費用を考慮した受益者負担の仕組みに関する研究	一橋大学大学院 教授 根本 敏則	B

< 研究継続の妥当性評価 >

- ・ 対距離課金施策のさらなる展開のため、実際の政策立案への適用性を考慮しつつ、指摘事項に留意しながら、計画通り研究を継続することが妥当である。

< 今後の研究計画・方法への指摘事項 >

1. 研究項目のうち「制度の比較分析」については、欧州の対距離課金の政策動向やその背後の考え方・社会的意義等についてサーベイを実施し、政策研究として2年目で成果を取りまとめて頂きたい。
2. 道路のネットワークとしての特性や外部経済・不経済も考慮したフレームワークを構築して頂きたい。
3. 維持管理費用は道路のアセットマネジメントの観点から重要であるため、道路の迂回路としての損害の軽減や渋滞等の効果を幅広く取り入れつつ、道路のメンテナンスの状態と維持管理費用との関係等について十分研究して頂きたい。
4. 道路整備のシミュレーション分析に適用する料金弾力性については、既存の社会実験データを活用し感度分析を行うことが望ましい。このため、料金弾力性に関するアンケート調査の必要性は低いと思われるので、実施の可否について再考頂きたい。

番号	研究課題名	研究代表者	評価
	駐車場デポジット制度による受容性と柔軟性の高い都心部自動車流入マネジメント施策の研究と実証	名古屋大学大学院 教授 森川 高行	A

< 研究継続の妥当性評価 >

- ・ 研究の見通し、研究の進捗状況はともに良好であり、計画通り研究を継続することが妥当である。

< 参考意見 >

1. デポジットの付与方法によって、このスキームの効果は大きく異なるため、可能であれば複数のデポジットの付与方法を検討して頂きたい。

評価の詳細については、参考（研究継続の妥当性評価の基準）を参照。

番号	研究課題名	研究代表者	評価
	道路機能に基づく道路盛土の経済的な耐震強化・補強技術に関する研究開発	大阪大学大学院 教授 常田 賢一	B

< 研究継続の妥当性評価 >

- 性能設計につながる耐震強化・補強技術を開発するため、指摘事項に留意しながら、計画通り研究を継続することが妥当である。

< 今後の研究計画・方法への指摘事項 >

- 盛土の変状、道路機能、耐震強化・耐震補強をいかに関連づけるかが重要であり、各要素技術を組み合わせ性能設計の形に取りまとめて頂きたい。
- 「車道部を保持する盛土の耐震強化・耐震補強の設計法と施工法」及び「盛土の異種構造との境界部において縦断線形を急変させない耐震強化・耐震補強の基本概念」に関して、具体的な対策工法についての新たな技術提案を期待したい。
- 地震時極限解析法の適用性及び予測制度を明らかにし、本工法によって到達可能なレベル及び予測可能性を示して頂きたい。
- 今後より独自性の高い研究成果を得るため、実験等、研究方法も含め、研究代表機関（大学）がより主体的に研究開発を進めることを期待したい。

番号	研究課題名	研究代表者	評価
	市民参加型交通安全対策・評価システムの実用化に関する研究開発	日本大学 教授 高田 邦道	B

< 研究継続の妥当性評価 >

- 汎用性の高い対策支援システムを構築するため、引き続き関係各機関との連携を図りつつ、指摘事項に留意しながら、計画通り研究を継続することが妥当である。

< 今後の研究計画・方法への指摘事項 >

- 対策支援システムのどの部分が新たな研究成果であることを明示して頂きたい。また、各市の特性に応じた問題や課題を整理し、その整理を踏まえた他地域への適用性や一般化について十分な検討をお願いしたい。
- 対策支援システムの機能として、交通安全対策の実施結果をフィードバックする仕組みをシステムに追加することを考慮して頂きたい。
- 対策支援システムの導入による事故削減効果を取りまとめるなど、導入の具体的な効果を整理して頂きたい。

評価の詳細については、参考（研究継続の妥当性評価の基準）を参照。

番号	研究課題名	研究代表者	評価
	A S R 劣化構造物安全性能評価手法の開発	京都大学大学院 教授 宮川 豊章	B

< 研究継続の妥当性評価 >

- ・ 非破壊検査手法の信頼度を高めるため、指摘事項に留意しながら、計画通り研究を継続することが妥当である。

< 今後の研究計画・方法への指摘事項 >

1. 劣化状況の評価と構造物の安全性評価、補修補強対策とを結び付け、非破壊検査手法の信頼度を高めるための検討を十分に行って頂きたい。その際には、提案されている各非破壊検査手法が従来方法とどのように異なり、それによりどのように性能評価・精度が向上するのか、またそれぞれの検査手法の適用条件・範囲について具体的に整理して頂きたい。

番号	研究課題名	研究代表者	評価
	多機能検査車走行による道路構造物の健全性評価	京都大学大学院 教授 杉浦 邦征	C

< 研究継続の妥当性評価 >

- ・ 当初予定した実用的な多機能検査車の開発は困難な状況であることから、平成 19 年度は振動特性の計測から得られる橋梁の応答評価に注力するよう計画を修正する必要がある。

< 修正内容 >

1. 当初予定した実用的な多機能検査車の開発は困難な状況であるため、検査車両を試作することは認められない。
2. 走行車両から供用下の道路橋の振動特性を評価する手法に関する知見や、橋梁の状態評価を実現するために解決すべき課題、求められる技術水準（精度など）を体系的に取りまとめることを目標として、研究項目を絞り込んだ研究計画を再提出して頂きたい。

評価の詳細については、参考（研究継続の妥当性評価の基準）を参照。

番号	研究課題名	研究代表者	評価
	センサーネットワークを利用した次世代型斜面防災システムの構築	立命館大学 教授 深川 良一	B

< 研究継続の妥当性評価 >

- ・ 次世代型斜面防災システムを構築するため、指摘事項に留意しながら、計画通り研究を継続することが妥当である。

< 今後の研究計画・方法への指摘事項 >

1. 近畿（京都）周辺でフィールド実験を行い、センサーを含めたネットワーク全体の耐久性・信頼性の検証やデータ収集等を実施した上で、道路管理の現場ニーズに沿った実用に耐えるシステムの拡張や機器開発をお願いしたい。フィールド実験の実施にあたっては、十分な成果が得られるよう国土交通省の協力を得ながら進めて頂きたい。
2. 斜面崩壊アルゴリズムの開発と合わせ、安価にデータを収集できるセンサーネットワークシステムの開発をお願いしたい。

評価の詳細については、参考（研究継続の妥当性評価の基準）を参照。